



13
遠
1728
/



門へ 13
排 1728
巻

序

天清淨地清淨内外六根清淨より
いさぎよき心清淨なるに後も長濱の
芦花の駒より清淨なる心を以て
頭よきもと子安ゆづり樓のくさるる

郷賢庭文庫

快庵の系

全五卷

書林

松根堂
文英堂



二七モアヤ

81
8871

山は神山と云ふ黒髪より白く髪は白く
急ふ身は神く益痛の差や命を
はぐえふに神も有りづくも
はるまをいふはくあやうく
く試くよぶづのみやほびほん

盧橘のやしが持るるよ
吉田の法師が寂くは寝れぬ
を祿するくは命を
ゆは神恒をくや願はる
はるまをいふはくあやうく

山は神山と云ふ

彼福達の部類も也と西道のかき
を控止しく唯願末をゆきく斗
とを神去時にもさるる處り
ら長の自影

修月房下物
あけりや白

禹の鑿石の穴を畫圖
絨灸り穴を重法記し
利久のちう塚か穴より
浮瀬の丸穴を底板怪し
多き心構え人石二の
くろくさきと一と

世の精と云ふ人を縛と今も
ほろくまといふを縛と今も
系一愛より愛より人官の奥の
ゆゑにさうと云ふ人の世のさ
あゝ地は穴といふ

世の官より入るの口 玉東

ほろくま種自叙

たのまが能をたぬくやたを柳楊よを
猿り鹿といふといふを種
さうといふといふを種
はふものといふを種
乃そねと紙信やほろくまといふ

心ゆくもいふべし

うき世の心持

洗心之草巻一

ほねく洞ほらくと日ひくく。俄とたくととささも
むむひ。ここ路ろふふつつりりゆゆぬぬよよかか云とををそそこ
ままくくきひ理り中ちゆうりり。思おも案あんして書かききぬぬれれだ。
ああやや〜〜ここそそせせ信しん〜〜とと。つつででややいい垂しり
浮うききここががぐぐささびび信しんんん先せん信しん〜〜とと。松まつ不ふりり先せん也。
竹たけ本もと豊とよ竹たけののああななはは根ね也。竹たけ田たかかららりりの

ひらみかーくきと。去^{せん}蒲^ふ困^{こん}のりー。容^{よう}新^{しん}と
い先^{さき}よ^よに^に人^{ひと}も。直^{ちか}投^{たう}さ^さね^ねば^ば鳥^{とり}く^くさ^さげ^げふ^ふな^なれ^れ現^{げん}浪^{らう}
あ^あこ^こら^らや^やま^まそ^そ掛^かげ^げ。あ^あお^おさ^さゆ^ゆ社^{しゃ}わ^わお^おな^なれ^れつ^つご^ごな^なと。
よ^よお^おど^どや^やり^りま^まー^ーく^くた^たく^くん^ん。之^{こゝ}味^{あじ}線^{せん}も^もか^から^らり^りう^うた。
新^{しん}み^みた^たあ^あぬ^ぬこ^こも。た^たの^のこ^こは^はよ^よな^なれ
浮^{うき}世^よの^の事^{こと}を^をー^ー忘^{わす}れ^れ世^よの^の危^{あや}う^うと^とか^かぬ^ぬぞ。
く^くあ^あよ^よく^くー^ーお^おう^うー^ーお^おぐ^ぐッ^ッア^アけ^けふ^ふ水^{みづ}の^の一^{いっ}筋^{しん}物^{ぶつ}
を^を誰^{たれ}が^が画^えで^で書^かき^きた^たり^りま^まぬ^ぬも^もく^くこ^ころ^ろー^ーと^と經^{けい}あ^あり^りま^ます

目^めぢ^ぢう^うは^は清^{せい}なり^りま^ませ^せぬ^ぬ見^みる^るま^まを^をー^ー肝^{かん}り^りこ^こえ
ま^まー^ーと^とア^アお^おま^まの^の清^{せい}ぬ^ぬか^かき^き茶^{ちや}の^の急^{きゅう}と^とふ^ふもの^のは。
せ^せん^んが^が茶^{ちや}と^とら^らぶ^ぶく^く飲^のみ^みあ^あま^まり^り又^{また}清^{せい}が^がた^たま^まい^いく^くも^もの^の物^{ぶつ}
で^でた^たぶ^ぶろ^ろふ^ふこ^こご^ごり^りま^まぬ^ぬね^ねの^の横^{よこ}所^{ところ}は^は不^ふ信^{しん}丈^{じやう}も^もき^きの^のお
凡^{おつ}雅^が人^{にん}ご^ごも^もし^した^たり^り外^{がい}先^{せん}も^も蕎^{そば}麦^{むぎ}を^をゆ^ゆか^かす^すの^のゆ^ゆー^ー
が^が獨^{どく}女^{にょ}と^とは^は極^{ごく}け^けご^ごれ^れ有^ある^る梳^{くし}衣^い蓋^{がい}と^とい^いて^てう^うろ
ま^まの^のけ^けー^ーは^はし^しこ^こ流^{りゅう}石^{せき}の^の枕^{まくら}も^も是^{こゝ}と^と去^{せん}方^{ほう}は^は振^{びん}舞^{まい}よ
舞^{まい}の^の差^さ味^{あじ}ー^ー汁^{じゆ}を^をう^うけ^けだ^だ脂^{あぶら}は^はく^くる^る猪^{ちゆう}は^は又^{また}夏^{あつ}酒^{しゆ}が

附てごさひいよは「後ひをとりはしことひご椀や
 ちーとちびよくひ人もひくせけー
 世の人れむすどり事黄金は志ず人の心は
 ちろちばその名財宝をくり世のりのとちり
 ながらあかぬと吹きよ心とれれをばせえ糸
 の仏人れ黄痘やちば女の脛は美をえて通と美ひ
 久人を減し飯粒ありよゆもひぬやと指し光次の光
 似うよひーちおれ笑あねごもあうんー

風もちたあてどりのろふ人れ鼻のえおけと精糸
 とたふてむ目筋子杓杞子を人冬に之をれ白
 ちばらとりよりもせりぬの馬うち茶とこの世
 ちばらも浮せあり。美巻と之ば人のねあよ
 茶生はとりたるのわがよりたの中とばたむひよ
 とちまも人もちらむの是、有けりらんー
 何れもゆり世のそとちあてりてあまの女中も
 くらやうよこせなりゆく先れ茶のくちは茶たも

ふつい名おれ文合ふ。お判押序も鳴呼く南す。此
との之び判ごまで。小貸格うもゆえか。一と受らむ
これを出たるなり

浪持のぢい受乏人。受乏人のこととは浪持なり。糶の
えと不糶。不糶のぢい糶なれど。し理をうたす人
万事れ糶とせよ。だ



はるごぶるふさささき

や
や

こやうのちうく
他とよのちうく
あはれ

ちとさのあうく
あはれ

あはれ

うく
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

